

岩室村の人口

(5月1日現在)

| | | |
|-----|---------|-------|
| 男 | 4,233人 | (+22) |
| 女 | 4,812人 | (+17) |
| 計 | 9,045人 | (+39) |
| 世帯数 | 2,069世帯 | (+6) |

(住民基本台帳による)

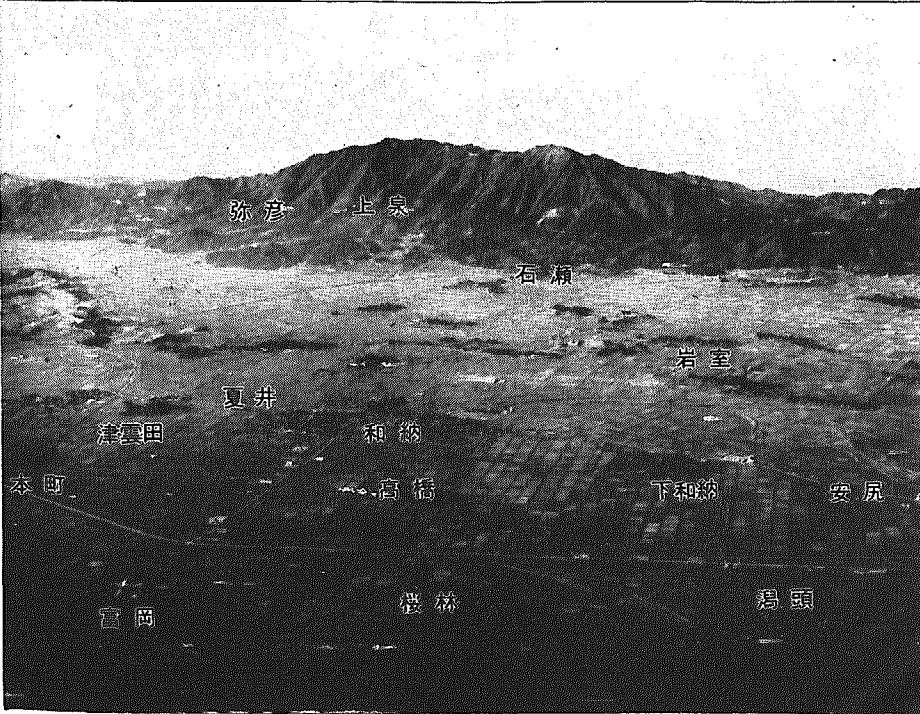


発行所 岩室村役場
印刷所 巻・北洋印刷K.K

No.134

今後の岩室農業は如何にあるべきか

岩室村長 横山喜八郎



新緑の爽やかさの中に、早苗の植付も終り、いよいよ初夏の訪れを知る凌ぎ易い毎日が続いておりますが最近の社会経済状況は、将日本経済が世界経済の中にあって大きく流動を余儀なくされているとき、我が岩室農業も、天下趨勢の余波を真正面から被り、日に日に深刻の度を増しつつあることはご存知のとおりであります。

此の重大なる局面を打開するには如何にすべきか、の問題を解明することは至って至難であります。我々の先輩が、栄枯盛衰の歴史の過程にあって、営々として築き上げられて来られた努力に対する当然の務めであり、且つ、又、未来永劫人類の発展のためにその大きな使命を痛感するものであります。

然し戦後、艱難汝を玉にする努力をされ来たった今日、そこには人間生活が大きく見出され、千九百七十年代は内政の年代となり、人間優先、社会福祉の充実が叫ばれ、為に週休二日制が重視され、高度成長の歪みである物価高、住宅難、公害等幾多の諸問題が大きなクローズアップされてまいりましたのであります。

他方、食生活の改善は、主食をパンに変える風潮が目立ち、米生産の向上と反

対に、年間の国民の米需要は反比例をいつつ米たが為、遂に有史以来と言われ米生産調整が昭和四十五年度から開始をされ、その需給のバランスを取る政策が行なわれて来たのであります。従って、米生産価格は上からず、機械設備投資の重苦は減反政策と併せ、農業経済を急迫に陥し入れ、あまつさへ、経営にその斗志と意欲を喪失したのであります。然し我々は、何時何如なる時代に於ても、生きるという崇高な気持を挫折してはならない、人間の進取、前へ前へと進まねばならない万物の霊長たる所以を識らなければならぬのであります。

千四百ヘクタールの美田が、何時かは来るであろう日本の食糧生産基地として、張りのある姿を思い浮かべて、現状を死守する使命を背負っている誇りを持たねばなりません。

最近の我が国の経済情勢は、昔からみると大きく変化し、本業でなくとも漸く糊口をつなぎ得る、案外恵まれた諸々の要素が備わり、そこには「必ずしも土に生ぎなくとも」と言う概念が存在する諸々の理由が我々の環境に充満していることは事実であります。

いわんや、農業枠内においてはの新しい試作の研究は、いちご、いや、酪農を見てい歴史が如実を物(次頁につづく)

飲酒運転をやめよう